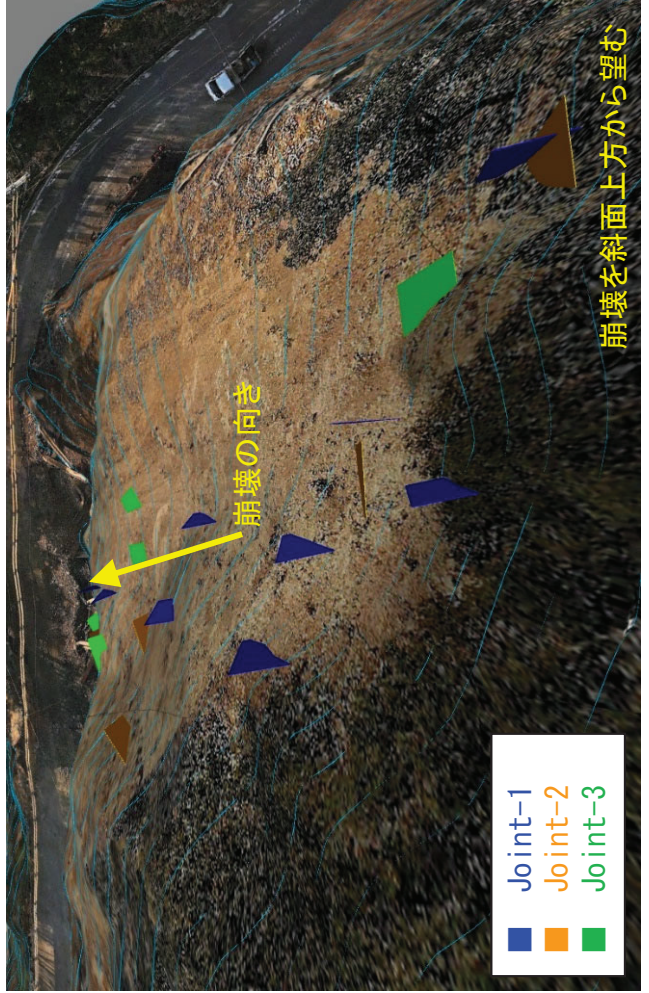
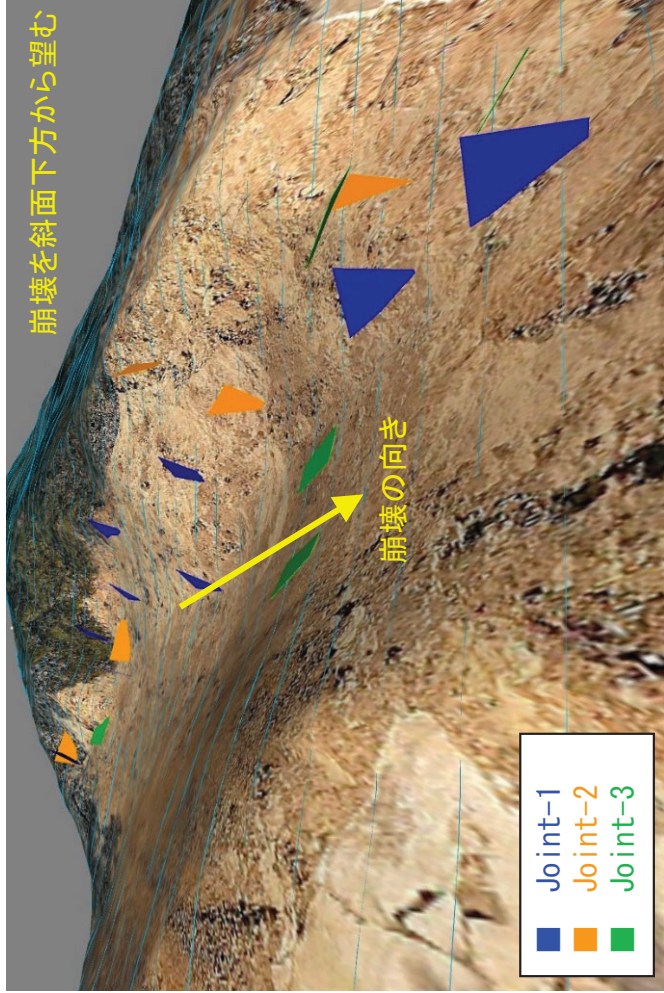
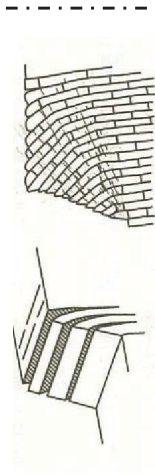
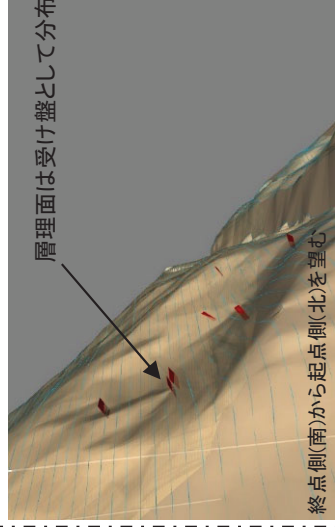
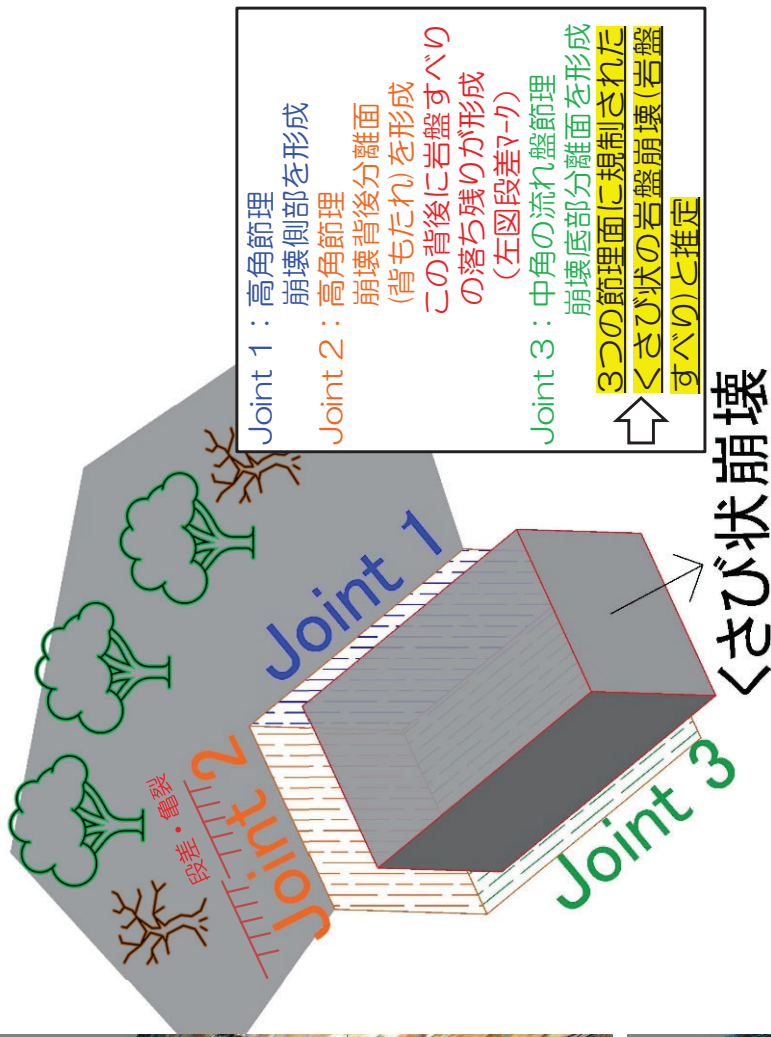


### 3. 1(1) 現地踏査結果(地質構造解析)



【崩壊面に見られる地質構造から推定した崩壊発生機構の推察】



■たわみ性トッピング  
節理(層理)によって分離した岩盤が重力によっ  
て全体的に斜面側にたわんで、ゆっくりと崩壊  
していく現象

引用: 岩盤斜面の調査と対策(土木学会、平成11年)に加筆

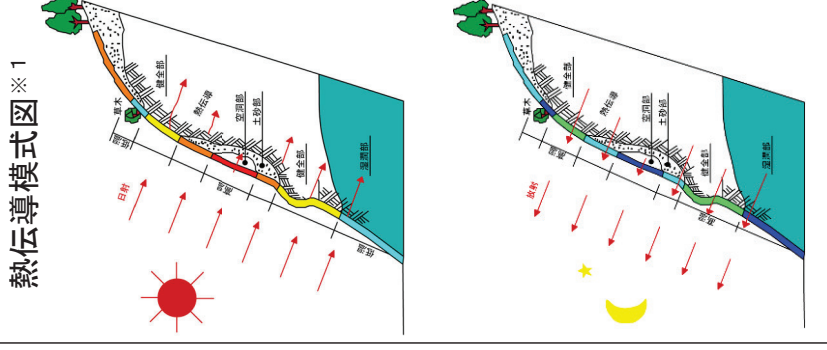
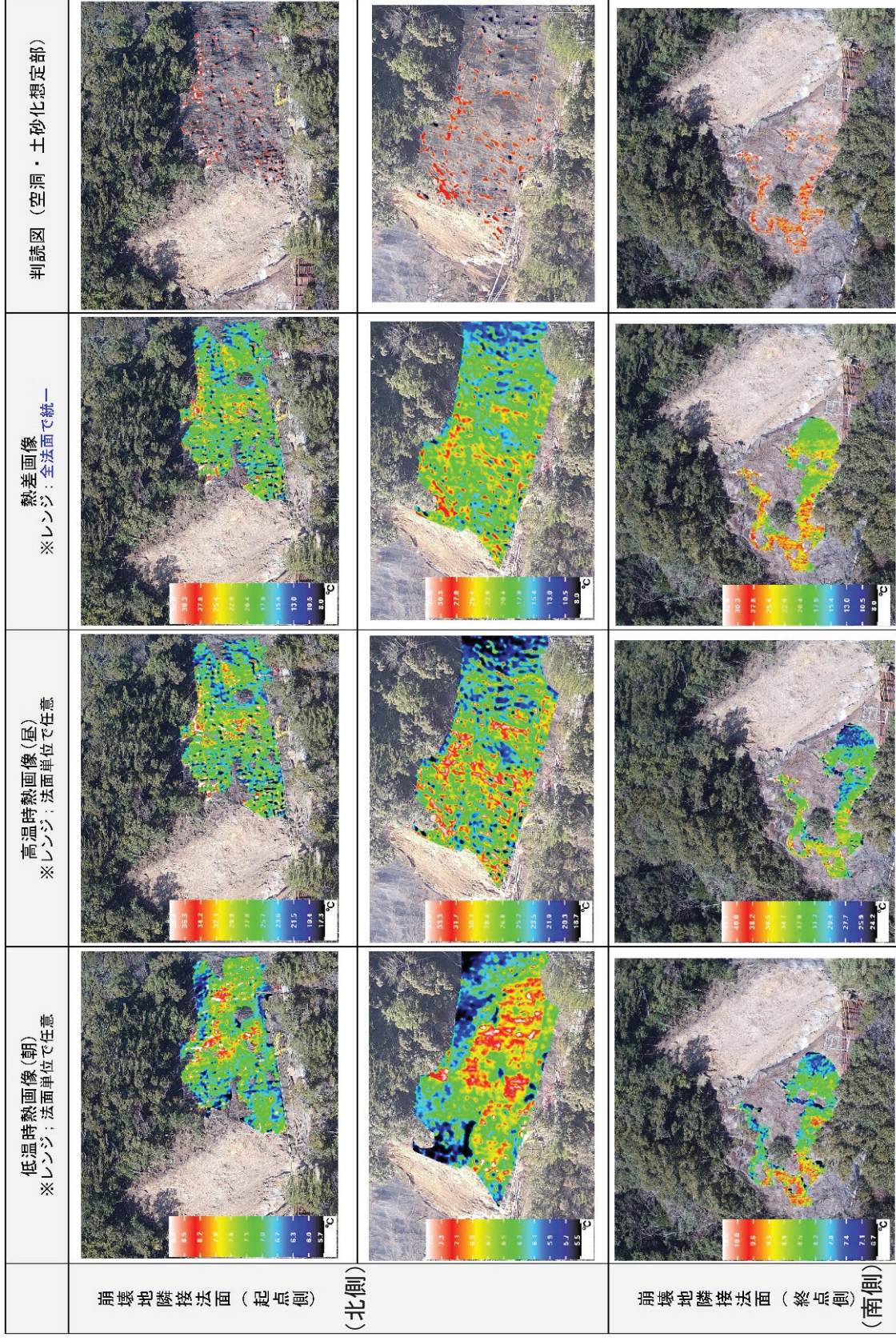
当該斜面に認められるbedding(層理面)はたわみ性トッピングしていた可能性がある  
→岩盤斜面の緩みを引き起こした要因の一つとして考えられる。

※ボーリング調査により検証中

### 3.1(2) 熱赤外線調査結果

- 植生や木陰、崩壊地付近では崩積土の影響で解析範囲が限定的となったが、崩壊地の隣接斜面は起点側、終点側ともに全体的に朝昼の温度差は大きくなくっている。法面全体に空洞や背面の土砂化が進行している可能性がある。
- 一方で法面単位で比較すると、崩壊地の終点側隣接斜面で温度差が最も大きい傾向にある。(起点側に対して2°C程高い)

吹付背面の性状	日中の表面温度	夜間の表面温度	2時期の温度変化
空洞部	特に高い	低い	特に大
土砂部	高い	低い	大
健全部	低い	高い	小
湿潤部	特に低い	低い	特に小



撮影日：12/29  
 低温時熱画像  
 6:30~7:00  
 高温時熱画像  
 12:00~12:30

※1：熱赤外線映像法による吹付のり面老朽化診断マニユアルP.15